

糖尿病内科・臨床検査医学



■糖尿病内科・臨床検査医学の紹介

私たちは、“糖尿病専門医として全身を診る”ために科学的思考を駆使する内科医(physician scientist)を育成し、愛媛の糖尿病診療のレベルアップ、さらには、新たな診断治療法の開発等を通じて社会に貢献することを目標としています。日本人の糖尿病患者数は急増し、40歳以上の3人に1人は糖尿病もしくは予備群と推定されます。また、糖尿病患者を診ることは、同時に多岐にわたる合併疾患を診ることにほかなりません。さらに、どの領域においても、糖尿病の合併は多く、周術期の血糖管理をはじめ専門医の必要性がますます高まっています。しかしながら、糖尿病専門医数は不足しています。新たに当科に入局あるいは研修する医師と一緒に、糖尿病をキーワードとして、地域医療のみならず世界にも役立つことを目指します。 糖尿病内科 教授 大澤 春彦

■プログラムの目的と特徴・経験目標

糖尿病は、単なる代謝異常ではなく、あらゆる臓器に障害を引き起こす全身疾患です。そのため、糖尿病専門医は、心血管病、がん、認知症、神経、腎及び眼疾患、妊娠、皮膚疾患など、内科の全領域はもちろんのこと、全身に渡る総合的な知識を持った医師をめざす必要があります。2年間の初期研修の後、3-5年目は、全国共通の内科専門研修プログラムに沿って、大学、松山日赤等の基幹病院と愛媛医療センター、西条中央病院等の連携施設を中心に内科全般70領域、救急医療、地域医療、一般内科外来等の研修を行います。5年目の研修終了時までに内科専門医の受験に必要な研修項目を達成できるように、研修先や内容を配慮します。内科サブスペシャリティである内分泌代謝・糖尿病内科(領域)専門医及び糖尿病専門医の研修については、内科研修と連動研修により、要件を満たせば日制度と同様に最短で6年間で受験資格が得られる見込みです。また、大学院(社会人大学院)に所属しながら、内科、糖尿病専門医、および臨床検査専門医の研修が行えるプログラムも用意しています。

■研修指導体制

役職	氏名(出身大学)	専門医、指導医
教授	大澤 春彦 (千葉大学)	日本糖尿病学会専門医、同研修指導医、同理事、同評議員、日本内科学会研修指導医・認定内科医、日本臨床検査医学会臨床検査専門医
准教授	高田 康徳 (愛媛大学)	日本糖尿病学会専門医、同研修指導医、同評議員、日本内科学会総合内科専門医、同研修指導医、日本循環器学会専門医、日本腎臓病学会専門医、日本高血圧学会専門医、同研修指導医
特任講師	川村 良一 (愛媛大学)	日本糖尿病学会専門医、同研修指導医、同評議員、日本内科学会総合内科専門医、同研修指導医
助教	池田 陽介 (福井大学)	日本糖尿病学会専門医、同研修指導医、日本内分泌学会専門医、日本内科学会認定内科医、同研修指導医
助教	羽立 登志美 (愛媛大学)	日本糖尿病学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、同研修指導医
助教	高門 美沙季 (愛媛大学)	日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医、臨床検査管理医

■初期研修、内科専門医研修プログラムの目的と特徴

先述しましたように、糖尿病は、単なる代謝異常ではなく、あらゆる臓器に障害を引き起こす全身疾患です。そのため、血糖のコントロールはもちろんのこと、内科全般に渡る総合的な診療、治療ができるように指導します。現在、当科では、周術期やステロイド使用時など、外科を中心に、各科からの血糖コントロールの依頼が非常に多く、常時40-60名の入院患者の血糖管理を行っています。また、高血糖による急性合併症で救急受診する患者数も増加しています。しかしながら、糖尿病専門医が常勤し、周術期や妊婦の血糖管理を依頼できる病院はむしろまれです。従って、将来どの科に進む場合でも、インスリンによる血糖管理の方法を研修することは必須と考えます。糖尿病治療について教科書には書かれていない実践的なポイントも含めて指導します。

■内科専門医研修終了後-糖尿病専門医・臨床検査専門医、大学院への進学

糖尿病患者数の急増に伴い、糖尿病専門医の育成は社会的にも急務の課題となっています。当科では“糖尿病専門医として全身を診る”ために必要な幅広い知識・技術を身に付けた医師を育成します。当科は、糖尿病専門医研修に必須の1型糖尿病や、緊急性を要するケトアシドーシス、遺伝子異常による糖尿病、二次性糖尿病、妊娠糖尿病など専門科でなければなかなか経験できない症例が多いのが特徴です。また、糖尿病専門医研修に必須のポンプを用いたインスリン持続皮下注入による治療や、持続血糖モニタリングなどを常時行っており、最短期間で糖尿病専門医を取ることが出来ます。専門医取得後は、大学・県内外の基幹病院において糖尿病診療を行っている

ます。また、当科では、臨床検査専門医取得に向けたプログラムもあります。検査部と連携により、プライマリケアに必要な、超音波検査を中心とした生理検査や、細菌検査、血液検査を始め、免疫・生化学検査等を実習し、“全身を診る”ために必要な幅広い検査の知識・技術を身に付けることをめざします。

研究面では、当科は遺伝疫学・分子生物学を統合した臨床研究に力を入れており、国内外の学会発表ならびに、Nature Genetics, Am J Hum Genetics, PNAS, Diabetes, Diabetes Care など国際的一流誌への論文掲載の実績があります。大学院に入り、世界の最先端で、遺伝子を応用したプレジジョン・メディスンに挑みたいという方も大歓迎です。更に、若手医師の学会発表等を通して、physician scientist の育成にも力を入れています。実際これまでに、日本糖尿病学会の中四国地方会で7名が若手研究奨励賞(YIA)を受賞しました。また、複数の糖尿病関連の研究助成を受けています。

更に当科では予防医学、患者教育のためのフィールド活動も積極的に行っています。一般市民への啓発活動、コメディカルとの連携による糖尿病患者会、小児1型糖尿病キャンプ、東温市の一般住民を対象にした大規模前向き臨床研究など、他の科では経験できない病院外での予防医学にも取り組めます。他科に比較し、女性医師が多いことも特徴です。ママさんDrも、大丈夫。出産や育児についても医局員全員であなたをバックアップします。

■医局員からのメッセージ

高門(土居)美沙季(H26年愛媛大学卒・医学博士(愛媛大学)・日本糖尿病学会専門医・日本内科学会認定内科医・平成23年糖尿病学会中四国地方会YIA受賞)



私は初期研修2年目の平成27年4月に入局し、令和2年に博士号を取得しました。私が糖尿病を専攻した理由は、患者さん一人一人の生活習慣や考え方に沿った治療と一緒に考え、回復の喜びを共に分かち合えるからです。全身性の疾患である糖尿病は、ケアする範囲も幅広く、毎日が発見と学びの連続です。大学院では、検査部で頸動脈エコーを丁寧に教えてもらい、一般住民を対象とした2,000人規模の「東温スタディ」という研究に参加しています。まだまだ未熟な私ですが、医局の雰囲気はとてもあたたかく、各自の目標やステージにあったプログラムを用意していただき、丁寧に指導して下さいます。興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。お待ちしております。

池田陽介(平成23年福井大学卒、医学博士(九州大学)、日本糖尿病学会専門医・同指導医、日本内分泌学会専門医、日本内科学会認定内科医・同指導医、令和2年日本体質医学会総会若手研究奨励賞受賞、令和2年日本糖尿病学会中国四国地方会YIA受賞)

私は福井大学を卒業し、2年間の初期研修を経て、九州大学第三内科に入局しました。関連病院で臨床経験を積んだ後、大学院へ進学して博士号を取得、現在はご縁をいただき当研究室で勤務しています。糖尿病はまさに全身疾患であり、幅広い医学的知識が必要ですが、経験年数が重なってもなお新たな学びがあり、学問的にも大変奥深いです。さらに、この知識をいかに患者さんに還元し、納得していただき、実際に行動に移してもらうか、これは他領域と大きく異なる治療アプローチだと思います。机上の勉強だけでなく、傾聴を含めた対話力も必要とします。日常のありとあらゆる経験が実臨床にも生きてくるものと思いますし、着実に成長を実感できるこの仕事に、私は大変やりがいを感じています。当医局の雰囲気もアットホームで、他科よりも女性医師が多いこともあり、出産・育児のサポート体制も整っています(私も育児休暇をいただき、専業主夫を経験させていただきました)。ご興味を持たれた方はぜひ一度見学にいらして下さい。

■お問い合わせ先(お気軽にどうぞ)

医局長:高田 康徳 yakata@m.ehime-u.ac.jp 診療科長:大澤 春彦 harosawa@m.ehime-u.ac.jp
ホームページ → <http://www.m.ehime-u.ac.jp/school/clab/> 電話 089-960-5647

